

佐保会兵庫県支部だより

第 14 号

佐保会兵庫県支部事務局

神戸市東灘区西岡本6-9-18

☎ 658 ☎ 078-431-5004



林利三郎氏画

丹波相原
山端⁹
高燈籠
天保七年
二代目
難波金兵衛⁹
作
太伊勢のまいり
に旅立つ人は
こころ
里を
振りかえつた
という
百五十年の
むかし
いまも偲べよ
平成二年
七月

兵庫県広報専門員活動から

酒居 淑子(昭42・家)

いま「女性の時代」といわれている。

兵庫県庁では県政のイメージアップを図るため、昨年四月、全国で初めて女性の広報専門員を設置した。女性ならではのソフトな対応と感性を生かそうというものである。

広報専門員には、県庁の内と外から一人ずつ充てるということ。当時、県の婦人・生活課副課長だった私と、民間からは公募することになった。全国的に話題を呼び応募者は五百人を超えた。結局、四人が採用され、女性ばかり五人の広報専門員がスタートした。

仕事の内容は広報テレビに出演したり、内外からの視察団や県民対象の会合などいろいろの場で県政のPRをするのが一つ。たとえば大会では、手づくりのスライドを映して兵庫県の施策を説明している。会の雰囲気をごわさないよう気配りをし、あくまでもさりげなく……。そのため、大会のプロ

グラムや演出にも口をはさむ。県民からは「県庁はかたいと思ってたがやわらかく好感がもてた」「わかりやすい」「ていねい」とまずまずの反応である。

もう一つの仕事は県庁内の各セクションにアドバイスをする事である。たとえば、ビデオのナレーションをやわらかく直したり、式典のシナリオのことはづかいを親しみやすく変えたり、冊子の編集をソフトにしたり、施策のネーミングを考えたりとさまざま。遠慮なく意見を言っているが、あまり気まずくならないのも女性の強みかもしれない。職員一人ひとりが広報マンになるのが理想だが、少しずつ変わってきたような手応えを感じている。

二年目を迎えた今年から、庁内女性職員と一緒に「イメージアップ女性会議」を開催している。各課から集まったメンバーは、平均年齢二十九歳のパワフルな三十一人。「職場環境」「職員のグレイドアップ」など五つのグループに分かれて活動しており、のびやかでユニークな発想の女性の視点からのイメージアップについて提言する予定である。

私自身、とまどいながらも自由に広報専門員活動をしてきて一年半。やっぱり女性は素晴らしいと言われるよう、皆で頑張りたいと思うこの頃である。

幼児教育一すじに

並川 明子(昭24・保)

奈良を卒業した年に一度出席しただけで御無沙汰を続けておりましたのに、この度佐保会兵庫県支部より原稿の依頼を受け、何を書こうかと思ひあぐねている内にとうとう締切が近づきました。在学中の事、その後の四十年余を思い出すままにしたためました。

私は昭和二十四年に保育科を卒業し、母の霞ヶ丘幼稚園を八年間手伝った後、三十二年に塩屋に小さい幼稚園を設立、四十四年に明舞団地にも一園開園する予定北の桃山台にも一園開園する予定で現在建設中です。昨秋には関西幼稚園連合会より四十年の表彰を受け、又内閣総理大臣より藍綬褒章をいただき、皇居に参内して春秋の間で天皇陛下よりお言葉賜わり、長い年月大勢の方にささえられ一筋に歩んでこられた幸せをしみじみと感謝した次第です。来年還暦を迎え受賞の記念と合せ、兵庫県の山奥(引原ダム畔)に小さい美術館を開設することに致しました。二十一年前に早逝した亡夫の残した美術品を中心に、四季折々展示替えをして、静かな

美しい景色と共に楽しんで頂きたいと考えております。十月八日開館の予定ですのでお誘い合せご来館下さいませお待ち申し上げます。

私が奈良で学びましたのは戦後の荒廃が続いている昭和二十三年で、平和にはなつたものの食糧は配給の時代でした。配給の揭示のある日は、寮生全員リュックを負って米屋に行きました。お米の替りに大豆粕や甘藷の時も多くて、寮の食堂の床の間や洗面所に新聞を敷いて干し、昼は蒸し芋二切れ、朝は大豆粕を粉にして小麦粉と交ぜ団子汁にしたり、時には配給の小麦粉を町の製麺所でうどんにしたらつたり、食事当番になると乏しい材料を工夫するのひと苦労でした。夜遅くまで勉強しているとおながすいて寒くてたまらなく、同室の人がそれぞれ少づつ闇米を出して飯盒で炊き、塩か味噌をつけて食べました。暖房もなく毛布をかぶって勉強しました。寮の風呂も時々なので町の銭湯へ行きました。生活は貧しく質素でしたが、やっと落着いて勉強できる時代の到来に私たちは明るく楽しく学びました。復活した文化祭に保育科は御伽の主人公に扮して参加したのも懐かしい思い出の一齣です。

当時の保育科は修業年限も一年で、先生方はせめて二年なければ幼稚園の先生として一通りを教えきれないのに大変厳しく熱心に、気合を入れてご指導下さいました。保育理論の小川先生、ピアノの地主先生、幼児のリトミックや遊戯の土屋先生、絵画の横井先生など今でも有難く懐かしく思い出します。ピアノもガタガタのが四、五台しかなくて、本科生に先をこされ、外で待っても仲々替ってもらえず、暗くなつてから手さぐりで弾いたり、早朝ろうそくを持って寮をぬけ出し練習しました。自分で電球を買ってそつと付けて練習する事を思いついたのは二学期も後半の頃でした。学制改革の時で女高師から女子大へ昇格運動をしないと他の専門

学校と合併させられると、先生方は必死に運動をしておられ、給与の一部も拠出され、各地の卒業生に呼びかけて寄附をつのつておられました。在學生も全員母校に行つて先生や後輩に呼びかけ寄附を集めてくるようにと一学期の終業式に校長先生より訓辞があり、私も友人や先輩と共に新制高校に発足一年目の母校へお願いに参りました。又卒業後も先輩の先生と共に恩師の土屋先生を講師に迎えて遊戯の講習会を開きその会費を女子大昇格の運動費として寄附しました。こうして無事女子大として出発、保育科も念願の二年に延長されました。その後各所に大学院が設置され附属幼稚園も移転新築し、その都度ささやかながら募金に協力し母校の発展を共に喜んで

おりましたのに、最後に保育科を四年制にとの運動の結果、四年制の教育方法学科に名称が替つてしまいました。それ以来幼稚園に就職する人は皆無となり、先輩がいなくなり寂しくなつてしまいました。歴史ある保育科が消えてしまった事は本当に残念ですが、時代の移り変りで仕方がないのかもしれない。私の園でも園児の母親はすっかり様変わりし、高学歴が多くなつているのに講演会では私語が多く、自己中心的で昔と比べ謙虚さがなくなりました。一番大切な幼児期の家庭教育が思いやられ将来が心配です。どうぞ高校や大学で教えておられる先生方は、将来立派な母親になれるよう、人間教育に力を入れて頂きたいと切にお願い申し上げます。

小中学生をもつ親のつどい

(現在の学校教育への提言)

座談会

出席者

紫陽花の美しい梅雨晴れの一日、須磨の閑静な山田邸にて、家庭で子育て中の方々七名にいろいろ話し合っていたいただきました。

小幡 京子(昭51家)
寺田 翠(昭37文幼)
藤井 勢子(昭48家)
マラス良子(昭42文幼)
三輪 孝子(昭49理)
山形 泰子(昭45文)
山田 桂子(昭31文幼)

近藤(昭6文)
八木(昭9文)

A 今日は、ようこそお集まり下さいました。日頃、お子様についてお考えの事を御忌憚なくお話下さい。
B 私には、学校は一つでいい。そ

今日は、ようこそお集まり下さいました。日頃、お子様についてお考えの事を御忌憚なくお話下さい。
A うちには、まだ小学生ですが、成績が総合評価なのでオールマイティでなければならず、個性が伸ばせなくて、かわいそうです。やらせたい理想と現実とは違っていますネ。
B 私は、学校は一つでいい。そ



- しているように思います。
- D しかし勉強はもともと楽しいものでなければいけないのに、今は我慢してするものとなっている。算数の問題が解けるとうれしい。また、漢字がかけるとうれしいという気持をもたせる教育が、必要であると思います。
- E 子供に、「どうして勉強するか」とたずねると、「いい学校に入っていい会社に入って多くのお金をもらいたいから」という答が多いけれど、あまりにも夢がないと思います。
- D 先輩のご子息で小さい時から動物が好きで中学校を一年遅らせたりしても、最後には自分の夢を果たして宮内庁にお出入りの獣医になられた方もいます。親御さんが、偉かったと思います。
- F 今は、昔に比べて夢を実現しにくくなってはいますが、親にもゆとりがなさすぎるように思います。一、二年位遅れでも家族の辛抱と理解が大切ですね。
- G また、今は画一的で個性や独创性を生みだす教育の場がないように思います。
- E 与えられたことはこなせるが、自分からは何も出来ないという子供達が多くなってきたのは悲しいですね。
- B 指導する側も、個性をのばすということがなかなか難しくなってきたのでしようか。
- G 義務教育が終わった後に、自分の好きな教科を伸ばす学校があってもいいのではないのでしょうか。
- A 学歴偏重の世の中であるし、学園中心の社会であるが、学校だけの成績で子供を評価しないでほしいですね。
- B 大学だけがすべての目的でなく、親が方向づける確固たる自信を持つてその環境づくりをすることが大切です。またヨーロッパでは楽しんで生活するということが大切なことのようにです。
- C アメリカでは、画一的なカリキュラムが組まれているのではなく教師の個人の方針が全面に押し出されているし、またボランティア活動が非常に大切にされているのですよ。大学入試には、体育や音楽、ボランティア活動が大いに評価されている点もうらやましいですね。
- D シンガポールでは、教科内容は、高校でも大学でもそんなに高度でなく、日本はあまりにもむつかしいことを習いすぎているようです。でも生活に対するバイタリィは、旺盛だと痛感しましたね。
- F 日本でも、もっと「書く」ということを大切にしていこうか。常識的な手紙の宛名書きもできない人が日につきおどろかれますね。
- E 勉強だけでなく、もっと身につけていかなければならないことが、あるように思うのですが……
- A 勉強がでなくても、いっぱい、いいところを持っている子もいるし、生きていく術も素晴らしいものを持っている。そういうところを認めていくことが大切だと思うのですよ。
- C アメリカでは、ドアを開けると次の人が「ありがとう」と言ってまた次の人と交替するが、日本では開けて待っていると、次々と無視して通りすぎていく人が多い。これはやさしさとか相手を思いやる心が欠けているのだと思います。
- D 勉強のできる子がいい子とは限らない。親は、勉強さえできればいいと思っているが、これは、まちがっていると思います。親を見て子どもは育つと言われるが、子供は外に出ると友だちとかの関係で思うようなしつけができません。
- G たとえば、ことば遣いの問題がありますね。
- E 男女のことは遣いの差がなく先生や目上の人に対しても敬語が使われませんか。
- G PTAでも目立ちますが母親のことは遣いも問題ですね。
- E 先生自身のことば遣いも乱れているように思います。
- C 子ども同志で一人がいいことを遣うと、その場に合わない仲間はずれになる事が多いようです。
- D 人のあとについて行くことが日本人の美徳なのでしょうが、自分らしく堂々と生きて行けるといいのにね。
- D 小学生は小学生として必要な能力。中学生は中学生として必要な生活能力が必要なのではないでしょうか。
- A 生活に必要なことを教えていくことが教育じゃないでしょうか。
- C 今の学校では、もう一つ基礎
- して勉強は競争するものではなく、自分から進んでするものだから塾は必要でないと思っています。
- C 私も、いかせていません。
- D 私もです。
- C 勉強は人の為でなく、自分の為にあるという自覚が必要だと思います。でも今の学校は塾へ行っている人中心に授業をする傾向にあるようです。宿題も少なく自分からはしないようです。
- D 父兄は、宿題を出して欲しいというけれど、問題集を一冊するより本を一冊読むことの方が大切だと思います。読書する事も楽しいということを知らせたいですね。
- A 本を読むことよりも早く正確にとという事が子供に要求され

学習（読み、書き、計算）が出来ていないように思います。何度も反復学習をしてほしいですね。

C 古いかもしれないけれど、大きな声で本をよんだり、暗記することも大切なのではないでしょうか。

D 教師も子ども達もゆとりがなさすぎるのですね。

F そうですね。子どもは塾やおけいこ、教師は部活や雑務に忙しいように思えます。

C 親も、ゆとりをもって自分の子どもだけ見るのではなく、

多くの人々の立場にたつて物事を見ていかなければなりませんね。

学校の成績だけで子供をみない世の中になってほしいですね。今日は、おもに小中学生をおもちの方々、また、海外生活の経験のある方にお越しいただきました。ほとんど、初顔合わせだったと思います。が、気持ちよく話しあっていた。ただ楽しく過ごせました。

今、問題の塾にはやっていない等、やっぱり安易に時流に

学校づとめ四十六年 岡村 はた（昭19・理）

私は甲南の地に生まれ、三才頃から山草の好きな父に連れられ六甲摩耶に登った。その頃の山は静かで、オキナグサ、ウメバチソウ、イワカガミ、ツリガネニンジン、シオガマグキなど咲き乱れ、わが家のロックガーデンには父が中央アルプスから集めた高山植物が小さい花を付けていた。岩井花壇や小学校の庭には園芸草花が絶えなかった。山に登るとアネロイドの晴雨計で高度を計ったり、手造りのラジオ、ザクロ石で手磨きして作ったレンズの望遠鏡などで育つ

た。このような中にも私は小学校四年の夏、六甲高山植物園に展示された西宮高女生が集めた標本の中のアサギマダラとウラナミアカシジミを見て以来、昆虫のとりこになっていった。

読む本と云えば凶鑑、採集記、探検記、自らも若き昆虫学者気とりで、「わたしの昆虫記」と題して、蝶は彼女、昆虫や蜻蛉を彼とよんで採集記を付けていた。横山桐郎の昆虫記を読み、特にコノハチョウは死んだ標本からは生きて飛びまわる蝶の真の姿は想像でき

流されないしっかりしたお考えを、それぞれおもちでいらつしやいます。もつと個々のくわしい様子もおききたいと思いますが、もう時間です。この辺でおわらせていただきます。ありがとうございました。



ないものだと書かれてあったことに感動し、ヒオドシチョウやルリタテハも同様だなど独りで楽しんでた。高雄中学の博物の先生に手紙を出し、昆虫の仲間の中学生を紹介してもらったのもこの頃である。このような中で、女高師の生物に進学することには何の矛盾もなかった。父の趣味とも一致したので読みたい本はすべて購入した。放課後は暗くなるまで実験室に残って勉強することができた。

勉強の支障は何一つなかった。しかし、女高師一年の十二月、第二次大戦がはじまった。昭和二十年六月五日、十年間ためた書物、標本、採集記（私は小学校四年から

うすいノート十四冊に書いていた）のすべてが灰燼に帰した。そしてその年の九月、父が死亡した。結果から見ればこの日、昆虫学者を夢みていた私は死んだのである。その時、すぐ下の弟は医学部に入ったばかりであった。五人の弟妹のうち三人は私が大学を出させた。第二人は博士号をとるまで面倒をみた。私は教師をしながら時間のある限り制服卸商の服のボタイン付け、穴かがりなどのアルバイトをしていた。

次の年に異四と二中は合併した。私には女高師時代から作った動物ノートがあった。それが丁度、二中の室井緯氏の植物ノートと同様な形式のものであったことに非常に驚いた。これをもとに二人で観察事典を出版した。彼とは三十年一緒に多くの共著を出した。旧制最後の学位といわれた昭和三十七年室井氏は北大農学博士を取得した。私の二十代後半と三十台とはこれに費した。

この間、五人の弟妹は結婚し、私の周辺に自由が増してきた。室井氏の紹介で遺伝、発生の専門である等原基知治博士の指導をうけるようになり、私はようやく自然の中から問題を見付け、これを研究してゆくと、また、その奥に問

題がみつかり、その一つを手がけると無限に興味湧き、さらに問題が湧いて来るのを覚えた。私はライフワークを見付けたのである。明るい連続した自由な時間を持ってなかつた時代は、断片的にガムシヤラに本を読んでいた。自然から直接学べるようになるまで待っていたら遅すぎるであろう。自然に密着した研究が出来るようになって以来、自然を目の辺りにした時、過去に読みつづけた書物の中が次々と甦ってきた。このような時期を経て、次々と問題をつかみとっていく研究方法が身についたのではないかと考えている。

終戦直後、津田松苗教授（卒業後來られた先生）から市大助手の推薦をいただいたが、経済上の理由からお断りして二十年が経過していた。高校教師をしながら自分のために研究するようになったのは昭和三十九年であった。

小清水教授は昭和四十八年、宮内庁依頼の奈良正倉院御室物竹材調査に私を推薦して下さり、翌年学位取得としては如何というおすすめがあった。私はすぐその九月、神大教授釜江正巳博士のご紹介で京大農学部教授滝本敦博士にご指導をうけ、五十一年十一月「植物

の斑入り発現様式に関する研究」で学位を取得させていただいた。

私は学位論文印刷の日付を六月五日とした。これは将来も戦後の苦勞を忘れないようにしたいからである。すでに自費出版四冊である。

気がつけば定年——家庭と職場——

庄司 幸子(昭26・理)

夢中で日々を過ごしていますうちに、定年、ああ教職四十年、結婚して三十余年と気がつきました。家庭と職場を生かすにはなどと、肩をはるような生活はしておりません。振り返ってみて、一体自分は何をしていたんだろうと思うほど、何もしていないことに驚いています。決して無駄なことはしていません。

分を買って来たのです」と話してくれました。教師をしていて辛かったことは、こんなことでスーッと溶けてしまっています。

仕事と家庭の両立といいますが、各個人でその態様が異なります。私は、昭和二十六年、「公立学校教員に任命する。五〇五〇円を給する」から始まって、七つの学校をめぐる。指導要領の改訂には四度あり、その都度、教育の変化に対応することに大わらわでした。指導上で悩んだ生徒もいました。その彼が卒業の日、「これ」とプスッと行ってさし出した物、黒い財布です。あとで母親が「あの子が迷惑かけたもんなと自

ら、すべて六月五日の日付である。これからも出版することがあれば同じ日付けにするだろう。私の元気はこの日に対する反発のエネルギーで保たれているのかも知れないからだ。

までのばすな、これが私の信条です。現在、子育て中の女教師をみると、苦心(くしん)惨(たん)胆(たん)・やりくり算(さん)段(だん)して、大奮闘(たいふんとう)しています。例えば保育所から「〇〇先生のお子さんが熱を出しています。引きとりに来てください」との電話を受け継ぎます。「やっぱり、ばれちゃった」と冗談めかしていても心配な顔です。早く行きなさいと言っても、授業の区切りはきちんとしていきます。「女性が家庭と仕事が両立できない中で、保護が平等かという論議をするのは短絡的。今、男性の長時間労働を前提にして女性が甘えていると言われるのは問題です。」とは元総評婦人局長の弁。

「まだまだ男社会。今の男社会はこういうシステム、あなたはそれに参加しますか、しませんかと問われている。参加しようというからには覚悟して入らないと駄目です」とは、ある女性経営者の弁。老人介助や育児など、出産以外の役割は男性も担うことでしょう。こうして周辺が整えられると、女性はいよいよ甘えてはもらえなくなり、能力だけで勝負していかなくてはならないから、女性の職場は厳しくなると思います。男とか女とかを超えて、人間として、い

い状況が生まれてくると思います。私は平成二年度末で退職します。教師を定年退職することが、人間をやめることにならない生き方を

女いろいろ三十五年 大山 明美(昭31・理数)

庄司幸子姉は
神戸市立向洋中学校長

がむしゃらに突っ走ってきて三十五年、ふと立ち止まって振り返ると世の中も随分変わった、私も変わったと感慨ひとしお。

大学受験のため、初めて一人で淡路島の外に出るよるべなさに、中突堤から元町まで乗った人力車が通った道は、今は車の洪水。

「担任をして戴こうと思います。」「担任をして戴こうと思いがたが、できますか。貴女の実績によって今後、女の先生を採用するかどうか決めることになると思うのですが。」試金石になってしまった。複雑な心境であった。

「まだまだ男社会。今の男社会はこういうシステム、あなたはそれに参加しますか、しませんかと問われている。参加しようというからには覚悟して入らないと駄目です」とは、ある女性経営者の弁。老人介助や育児など、出産以外の役割は男性も担うことでしょう。こうして周辺が整えられると、女性はいよいよ甘えてはもらえなくなり、能力だけで勝負していかなくてはならないから、女性の職場は厳しくなると思います。男とか女とかを超えて、人間として、い

先日、関西大学講師・清原桂子先生の「女の自立は男の自立」という題の講演をお聞きした。家事育児は夫婦で平等に分担するべきだ、と堂々と話される同性を目的当たりにして隔世の感に浸った。

「女教師に数学を教えられては頑張ったんだ。」と男子生徒。功罪相半ば。

「貴女に三年の授業を担当して戴こうと思いがたが、もしできなければおっしゃってくださいね。いつでも変えてあげますから。」若い頃、校長先生が初めて男の子を教える女教師に掛けてくださっ

「女教師に数学を教えられては頑張ったんだ。」と男子生徒。功罪相半ば。

結婚して母になっても育児休暇もなく、産休も前後六週間の時代であった。学校の風呂場で、痛さと乳飲み子のおしさに、涙しつつ捨て去ってしまう母乳を絞る。働く母としての悲哀にうちひしがれた一時であった。

夜、母乳を含ませながら二時三時まで教材研究に追われたり、子供が熱を出せば、徹夜で看病をして一睡もせず教壇に立った戦争のような日々。

「女教師に数学を教えられては頑張ったんだ。」と男子生徒。功罪相半ば。

「女教師に数学を教えられては頑張ったんだ。」と男子生徒。功罪相半ば。

「あの子が迷惑かけたもんなと自

えられます。今日することは明日

えられます。今日することは明日

えられます。今日することは明日

えられます。今日することは明日

二人目がお腹にいると判ったとき、迷惑をかけるからと初めて担任を外して欲しいと申し出た。

しかし「このような大きな学校で女性の担任が一人もいないという事は困る。副担任を付けるから。」といわれて、つわりのひどい体を押し立てた家庭訪問も、こなしてやろうと意地になった。その揚げ句に「女はいくら優秀でも産休があるから駄目なんだ。」と同僚から保護者の前で非難される始末。たとえようのない怒りがあつたがグツと飲み込むより術を知らなかった。試金石としては、甘えは許されなかった。男性教師の上をいく働きをしなければ一人前には認められなかった。平均的男性教師と同等の働きでは、女は半人前としか扱われたいし、仕事も与えられなかったのである。一人前に仕事をすれば「あれは女ではない。」といわれたり、「貴女は男性感覚でものを考えるから素晴らしい。」といわれたり。しかし男性教師にすればそれは最大の賛辞のつもりなのである。

私が学年主任になれば、若い男性教師に向かつて「おまえたち、よく女の主任にヘイコラできるなあ。」と年配の男性教師。

年配の女教師は「女は後ろに下

がつておればいいんですよ。男の先生がやってくださるから。先生みたいに頑張らなくても。特に先生は小さな子供さんもいることだし。」と、いたわりの言葉その思いやりは嬉しかったが、せめて、「お互い大変だけど助け合って頑張ろうね。後に続く女子教員のためにも。」と云って欲しかった。

土曜日の放課後になれば、取るものも取り合えず淡路から神戸医大まで駆けつけ、長期入院の焦燥と日曜日しか看病できない私への怒りから出る小言の洪水を浴びせられ、首うなだれながら凍てつく冬の月曜の朝四時、子供をネンネコでおぶって病院を出て職場に戻る。心の底まで凍てついていた二年間。若かったから耐えられたこと。

児童相談に携わって

この仕事に就いて二十年近くにになります。一般の社会から見ればマイナーな子どもたちを相手の仕事ですが、その一端をご紹介します。

児童相談所の仕事

受け付けは相談内容により四つに分けて行っています。

一、養護相談—親の事情により家

しかし今思えば、母として、妻としての苦渋があればこそ、生徒の親の想いに共感し、生徒の成長に一喜一憂する事ができる教師の喜びがあったことは否めない。教師がその全人格を生徒にぶつけて教壇に立たざるを得ない仕事である以上、三十五年の女の歩みは「色に出りけりわが思いは。」であったのである。

時代は変わった。が、私の教頭職は、やはり試金石であり背後霊はいつも私の肩に乗っているように思う。近頃それが守護霊であるのかもしれないと思えるようになった。男性教師にはいたわりと援助を戴き、女性教師の全面的な協力を有難いと、しみじみ感謝するこの頃である。

(大山姉は県立北須磨高校教頭)

寺嶋 龍子(昭42・文)

庭を失った子どもで、施設や里親など養育の場を早急に見つけなければなりません。

二、非行相談—学校や家庭裁判所等と連絡をとりながら環境を調整し、子ども自身には生活の立て直しをはからせます。

三、教育相談—親子関係や子どもの性格についての相談で、登校拒

否や家庭内暴力もここに入ります。親、子へのカウンセリング、心理治療を行います。

四、障害相談—発達に障害をもつ子どもの相談で、障害児を抱えた親を支え、子どもの発達を援助するため母子へのグループ指導等を行なっています。

職員は、親や関係者から情報を集め社会診断をするケースワーカーと、子どもの心理診断をする判定員、さらに、一時保護所(子どもを短期間お預かりする、見相独自の施設)には、保母、指導員、医師(嘱託)、看護婦、調理師等子どもを二十四時間体制でお世話する職員がいます。

適度の挫折体験を

では、どうして子どもの問題行動は起こるのでしょうか。非行児と登校拒否児の発症過程といったものを比較してみます。いづれも挫折体験が背景にあることは共通しています。しかし、その内容は対照的です。非行児の挫折体験は生育歴のかなり初期から見られ、強さも頻度も一般の子どものそれをはるかに上回ります。彼らはいつの間にか挫折には慣れっこになり、少々のことでは心を揺さぶられなくなっているようです。「いくら注意しても同じことをくり返

す」とか、「罪障感が乏しい」などと言われますが、極端な子どもの場合では、そういう感覚がすでにマヒしてしまっているように思われることがあります。

それに比べ登校拒否児の挫折体験はかなりおくです。むしろ挫折がなさすぎて抵抗力が育っていません。彼らについてはさまざまな原因と思われる場合があります。彼らについてもわりの大人は「何故そんな簡単なこと——登校すること——ができないのか」「親の気持ちかわからないのか」などと責めますが、それも無理なことです。そんなことを言われれば言われる程彼らは深く傷つき、身動きできなくなってしまうのです。

非行も登校拒否もはっきり形を現すのは中学生、つまり思春期を迎えてからです。その芽はずっと以前から徐々に形成されてきています。子どもの成長過程には、強すぎず、といって全くないのもよくない、適度の挫折体験が重要なように思われます。

一人前として人格尊重を——では親はどのようにすればよいのでしょうか。「子どもを一人前の人格として認める」ことが前提になると思われます。昨年、国連で「子どもの権利条約」が採択さ

れました（我国は現在、批准に向

もあるものですから。

けて検討中です）が、家庭の中の、ごく日常的なかわりの中でもこの感覚が大切にされなければならぬと思います。放つたらかしではなく、また甘やかすすぎでもなく、子どもを一人前の人格と認め

たかかわり、その中で子どもは適度の挫折体験を自然に学んでいくのではないのでしょうか。妙な言い方ですが、人間が社会生活をする限り身近かに挫折の種はいくらで

仕事人十二年生

庄司

静子（昭51理化・昭53理院）

忘れもしないそれは昭和五十年

九月だった。夏休みを終え、良い

卒業研究と、就職先決定が学生時

代最後半年間の仕事と思いがら

大学に着いた。しかしモスグリー

ンの就職掲示板にはバラバラと数

枚の企業が載っているだけ。毎日

毎日待った。卒業するまでには何

とかなるだろうと軽く考えていた

けれど、求人先は増えなかった。

これがオイルショックの影響であ

ると後に知った。

正月返上で勉強し、二月の研究

発表、三月に大学院試験を受けた。

二年間の大学院生活は充実して

面白かった。実験が好きだったか

ら、毎日二時間の通学も苦ではな

敵なあなたに」（暮しの手帳社）

という本をもらった。その中の

「こつをえらぶ」というコラムが

あった。妻・母・仕事人の三つの

うち、二つを選ぶのがベストの生

き方よと書いてあったのが、妙に

心に残った。

大学を出て、勤め、やがて良い

伴侶を得て、母となり、女の人の

生き方は多面的である。

「二つをえらぶ」は人生の良き

指針であった。

仕事はというと、雑用が多い。

入社した頃のコピー、お茶くみ、

清書など。現在は、一〇名の課の

全員のスケジュール決めてある。

もっと化学の知識を生かしたいな

どと意気込んでた頃がなつかしい。

しかし、どんなことも仕事は仕事

である。周期律表と教養の頃の基

礎実験、そして「そういつたセン

ス」があれば続けられるのである。

私は家庭人としての仕事丸っ

さり駄目なので、大学時代はよく

勉強し、今はいいお母さんであり、

良く家事をこなしている人をうら

やましく思う。

無器用なりに十二年間続けてき

た。男女給料差も大きく、こんな

はずでは？と疑問を感じながら、

この年月やってこられたのは労働

組合長の励ましであった。私があ

んばればやがて男女格差は自然に

小さくなると。だからくやしきも多

いだろうががんばってみないかと。

女の人が働き続けるためには、

夫の理解、家族の理解、同僚や先

輩のちよつとしたやさしさ・励ま

しが必要と思う。おかげでどうに

かこうにか続けることが出来た。

まだまだ日本の社会は男中心で

ある。本当の同権というのは、何

十年先だろう。

男の見方、女の見方、二つの考

え方で良いと思う。これからも苦

しいだろうけど、女性の目を増や

したいものだ。女だからこそ、と

いわれる仕事のお手本を見せたい

私の生き残り戦争

黒田 幸枝（昭60・理物）

一般企業においては何らかの役割

を果たすことで個人の存在価値が

認められるわけですから、私の役

割を確保することが必要だったわ

けです。結婚前は、半導体製品の

テスト部門で働いていました。が、

結婚と同時に設計部門への移動と

なりました。なにしろ課内結婚で

したから私が移動させられるのは

仕方ありませんでしたが、移動先

については私の希望が優先されま

した。新しい仕事は、当時我が社

では最先端であった16ビットマイ



クロコンピュータの設計でした。

私が望んだ新しい仕事と結婚生活、

どちらからも逃げ出すわけにはいきません。とにかく生き残るぞ！

では一体何をすればいいんだろう。まず知識を蓄えることから始めました。一年目、私は「何事も見逃さない」ようアンテナを張り巡らせて勉強しました。上司や先輩も力を貸してくれましたし、主人も家事には目をつぶってくれます。

知識だけでは十分ではありません。大事なのは知識を活かすこと、それには「鋭い目」が不可欠です。結婚二年目のそのころには、マイコンの設計評価や不良解析などの仕事が増えていましたから「鋭い目」を養うには格好の時期でした。

仕事に追いかけられる日々が続きました。来る日も来る日も残業です。残業が当たり前、残業してやっと一人前の仕事が出来ると言うのが職場の実体です。しかし私には時間がありません。

なるべく早く帰って家事をしなくてはいいけません。でも、仕事を遅らせるわけにも行きません。結局、私の気持ちを第一に考えてくれる主人が何もかも負担してくれました。主人に迷惑をかけてまで仕事を

をするのですからいい加減では申し訳有りません。気持ちに一層の

拍車がかかります。

「生き残り」の最終手段は、

「何かに秀でること」です。誰にも負けない確固とした技術を身に付けることは、会社組織の歯車人生では特に意味のあることです。

それこそ必死で頑張りました。仕事を楽しいと思えたり、生きがいにも感じていました。あつという間の三年でした。そろそろ自分の道が開けたかなと思うころ、神様からの御褒美です。私はある種の自信をもって、妊娠を告げる

ことが出来ました。「胸を張って産休がとれる。」と言うのが正直な気持ちでした。産休で周囲の人には多少の迷惑をかけることになりましたが、それがとりもなおさず私の存在価値でもあるわけです。

同僚は、産休は一週間にしてくれよ、と言ってくれますが、やはり、産休までに、彼らに私の役割の指導をしなくてはなりません。三年間蓄えた大切な知識を人に教えるの簡単なことではありません。

しかし、後数ヶ月せめてもの償い頑張らなくては！

生き残りゲーム一回戦は、私の勝ちのようです。でも、進歩の速い半導体産業、産休明けの二回戦をどう戦うか今から作戦を立てなくては…

横田するゑさんを偲ぶ

八木 静子(昭9・文)

横田さんの計報が伝わった時、往時の事を知る人達から「横田さんのされた事を顕かにすることが、当時の佐保会兵庫支部の活動の一部を記すことでもあり、今まで記録されていないあの頃の兵庫支部の、大げさに言えば歴史を述べることにものだから、当時の様子を知っている貴女が是非筆執るべきだ」といわれ、朦朧として来ている記憶をよび覚まして、ここに追憶を兼ねて佐保会兵庫支部史を綴ることにしました。

春まだ浅い如月十一日、横田すゑさんが歿されました。昭和二年に奈良女高師の文科十四期生として世に出られ、戦前は神戸野田高女で先生をされ、戦後は神戸家庭裁判所の調停員として、どちらのお仕事にも誠意を盡してお働きを全うされたのでした。

表へ出ることを好まれません、いつも一歩下っていられた方でしたし、調停員を止められてからの最近の十余年は体調を崩して家に引籠り勝ていらっしやったので、現在の佐保会員の殆どの方は御存じない

のではと思います。しかし昭和三十年中頃から四十年代にかけての十余年間、私が佐保会兵庫支部長をさせて頂いていた間中、「貴女をお助けすることになるのなら」といって、引込思案を克服して支部の仕事に積極的に手伝って下さったのは勿論のこと、本部理事を何期間かお引受け下さり、更に本部監事も一期勤めて下さいました。その間絶えず奈良へ出かけ支部との連絡役を果して頂いたものです。(その頃は支部長は本部理事を兼ねることはしていませんでしたので、本部理事は支部にとつて大変重要な役目でした。)更に支部では副支部長にもなって下さり、その慎重な物事への対処の仕方、適確な批判精神の堅持による公平な評価の仕方等で、ともすれば突走り勝てまだ青良さんの抜けていなかった若年の私を補佐して下さいました。

戦後すぐの大混乱期にあっては生活の安定は経済面から」との故小泉ハツセ姉(大正五年卒、国漢四期、戦後の初代兵庫支部長)の提言で世間でいう頼母子講の仕方を取り入れた相互扶助組織を作り、佐保会友愛金庫と名づけて、親和学園にお勤めの故松岡ふさゑ姉(大正十五年卒、理科十四期、戦後二代目支部長で私の前任者)がお世話をして下さいて多くの人々が(佐保会員以外の人も加入)経済的な利便を得つつ佐保会兵庫支部の基本財産を作ろうと少しずつ積立てて行ったものでした。(このお金は大した額にならないうちに、友愛金庫活動は終止符を打ってしまいました。後に佐保会東京会館建設資金を全国募集された時、兵庫支部の出資金として使われ、支部の顔を立ててくれましたし、支部の皆様の代理を果してくれました。)

こうした物質面での支部活動に對し、戦後の混乱期も過ぎて経済面での高度成長期に入って行った昭和三十七・八年頃には我々の間にも精神的な向上充実を求める気分が強くなり、その希望を満す為

に横田さん加藤さん(文十四期、現存)の二人が世話役となって色々働いて下さったのでした。現在の佐保婦人学級の活動にも似たもので、月一回の割で集り、出席者はその都度五百円を支払って講師の謝礼に充てたのですが、出席者が少い時には謝礼の額に達

しないこともあったのではなかったかと後になって気になったのですが、その時は誰もそんな事に気づかず巧くいっているものと信じていました。どうやら横田さんが不足分を補って下さっていたようで今頃「悪かったなあ」と話し合う始末です。暢気なものでした。講義室も謝礼の不要の所を探し求めるのは今の佐保婦人学級の世話係の方々の御苦労と同様でして、初めの一、二年は山手女子短大の高島先生にお願いして西洋古代哲学史のお講義を短大の教室でして頂きました。諏訪山公園の西隣に短大の校舎が新築されたばかりでしたので山へ登る苦労もなく最も手近な教室で勉強させて頂いたのです。(当時知らなかったのですが、高島先生は昭和二十七年卒、理科四〇期の藤井百合子さんの御主人でいらっしやいます) 哲学史

の次は持田閑堂師による般若心経のお話で、これは師が歿くなられるまで数年続きました。初め頃は誰の縁故で頼まれたのか下山手小学校の教室を会場として毎月連つたものでした。後に御影に禅道場が造られましたからはそちらへ会場を移しましたが、借り物の小学校では遠慮しながらの聴講でした。御影へ移ってからは大手を握っ

て通うようになったものです。持田閑堂師は禅の方では有名な方でしたが、そんな気振は微塵もお見せにならず仏教を極力抑えた純粋に知的(哲学的)な講話に終始して下さいまして我々受講者は多大の感銘を受けたものです。横田さんがどんな関係から師に講話を頼んで下さったのかも知らず、又そんな大家に我々の提出する僅かの謝礼でよかったのかも考えず唯々お話の面白さに聴講を続けたというのが実情でした。(多分横田さんは大きな負担を処理して下さいたのでしよう。)

持田閑堂師の御葬儀に参列させて頂きました時、禅僧として名だたる方々が導師・副導師として式を進めておられるのを見て、この様な立派な禅僧に心易くお話をさせて頂いたのだと改めて感謝の念を強くしたものです。

我々の教養講座はこれで一頓挫してしまいました。横田さんはその後ずつと神戸大学の小林行雄教授や京都大学の西谷啓治教授の講義を聴講生として受け続けられました。まさに現在やかましい生涯教育を実践されたのでした。

なお直接佐保会の仕事ではありませんでしたが、大学婦人協会神戸支部の活動にも佐保会代表として

出て頂き、34・35の両年は副支部長として当時の野田支部長を助け募金活動等大いにお働き願ったものです。

こうして五十年に近い横田さんとの交友を回顧しますと、いつもそれが永遠に続くものときめていたように思われます。その糸がボツンと切れてしまった今その長年の交流の事実を淡々としか頭に刻みつけていないのに驚かされ、悲しい想にさせられるのです。人間

誰もがそうなのでしようか。どうして一瞬一瞬を強く刻みこんでいないのでしょうか。

りつつも実際は失敗を重ねるのみ、何のことはない、手のかかるのが一人、増えたようなものと、これまで反省することしきりでした。



社会人一年生の挨拶

(半年間の体験)

教員となつて思うこと

坂井美樹(文・国)

西宮市立西宮高校に赴任の決まった時、まず思い浮かんだのが、夏の甲子園でした。(あの高校野球の開会式で、出場校名の入ったプラカードを持って歩く女の子がいます。あれが西宮高校の生徒なのです。)まず高校野球。そして住み慣れた西宮市内に勤務の決定した驚き。

数日後、地図を頼りに、名前しか知らなかった高校の下見に出掛けました。今から思えば可笑しい

のですが、正直、校舎をはじめ見た時には、身震いしました。「やっぱりもう、教師なんて辞めよう。」

不安のあまり、働く前から後ずさりする始末、何とも情けないスタートでしたが、それから半年弱、「教師なんか辞めよう。」などと思

う暇もなく、校内外をひたすら走り回る日が続きました。

定した驚き。

走り回りながら思ったことは、

就職という仕事の幅広さです。教科指導は言うに及ばず、クラブ、行事、その他事務処理等、雑多な

仕事は山積み、早く一人前にと焦

惑ったのは、特に修士において就

小谷麻由美(家・修食)

学生生活を終えて

私の奈良女子大での学生生活は、

修上の間のたった二年間でした。

これまで某私立大で家から通学していた私にとって初めてひとり暮

しを経験できたよい機会になりました。

外部・内部を問わず修士に進学する人が増え、研究に対する

お互いの悩みを相談しあえる多くの友人を得られたことは私にとってプラスでした。ただひとつ戸

惑ったのは、特に修士において就

職に対する姿勢です。今春縁あって某企業に就職することが出来たから言えるようなものですが、就職難の学校関係の研究職に執着しすぎ、受け身でただ待っているだけの印象を受けました。男子の修士終了者は確かに売り手市場ですが、女子の場合、特に就職しにくいことは事実です。しかし、昔に比べ企業への門が開かれていることも事実です。

今年、私の会社の研究職に配属になったのは十四人(男4・女10)でそのうち五人(男1・女4)は修士終了者でした。私は、研究開発の方でなく基礎研究に配属されフレックスが使えるのでほとんど学生生活の延長ですが、やっていることはまったく異なり、また新たなことにチャレンジできるという期待でいっぱいです。特に私の研究テーマは、世界的に広がりをみせている動物愛護運動の高まりから、医薬品、医薬部外品を扱う企業にとって安全性試験のための実験動物の軽減を余儀なく求められてきています。そのため動物以外のもの例えば、細胞培養により安全性試験が行えないか(代替法)の検討を行っています。配属が決定して数ヶ月しか経っていないので、まだ右も左も

三和総合研究所で

服部聡子(文・教)

四年間通い慣れた大学を離れ、私が社会人としての生活を始めてからすでに五ヶ月が過ぎました。記録的な暑さのこの夏、一日の休暇もなく、世間では盆休みみだつた八月中旬の電車の空き具合を体験するにつけ、ようやく自分が社会人になったのだなあという自覚が生まれつつある今日このごろです。

私の勤めております三和総合研究所は、普通の会社よりは会社っぽくない会社で、幾分学校の雰囲気を持つています。わが社は最近はやりつつある「シンクタンク」で、仕事内容は部により異なります。企業の経営コンサルティングを行う部、法人向け会員制事業を行う部などありますが、私の所属する研究開発部では主に企業や官公庁からの受託調査を行っています。

分らない状態ですが、私なりに頑張ろうと思っています。学生時代をふりかえって、良き先生、友人、先輩、後輩に巡り会えたことは、これからの私の人生のなかの糧となることと思います。

1プランづくりまで、様々な内容にわたります。大学時代に専攻していたこととはほとんどいいほど関係なく、従って新たに勉強しなければならぬことばかりです。

社風の話に移りましょう。わが社ではピラミッド型組織をつくることで研究員の自由な活動が妨げられることを嫌ってか、役付き者は部長とプロジェクトリーダーのみで、あとは全員同じ「研究員」扱いです。若い人(三十才迄)の社員がほとんど、ということもあって、自由で活気に満ちた雰囲気の中で楽しく仕事させていた

とはいつてもやはり「社会」であり、仕事内容や態度、特に人間関係面においては、学生時代には感じたこともなかった悩みもあります。が、同時に大学では知り合

うこともなかったような人達と触れあえること、そして同じ奈良女子大卒業の二人を含めた十一人の同期生に恵まれたことなど、得られるものの方が多く、毎晩残業が続いても、仕事がうまくいかず自己嫌悪を感じても、できる限り張りぬいてみたいと思っています。

調査の内容は土地再開発、リゾート関係から地方自治体のマスタ

平成二年 佐保婦人学級

坪根ミキ(昭16・理)

佐保婦人学級も今年で八年目を迎えました。急速に訪れようとしている高齢化社会の中にあつて、「健康で生き甲斐を持つ」と言う事は、私達の切なる願いであり私達はそれを学習し学んだ事を社会へ還元すると言う姿勢で取りこんでおります。

頃は、プログラムの大半が済んでおりますが、全容をご覧頂く為に年間予定を書かせて頂き、現在迄の概略をご報告致します。今年このヨロガは、しあわせの村の見学も兼ねて行う事になり、「保養センターひよどり」の和室をお借りして、八木先生のご指導をうけました。先ず座って足を組み、両手を軽く膝にのせて瞑想のポーズ。又、肩で立つポーズ等々。深い呼吸とゆっくりとした体の動きに心を配り乍ら練習を重ねました。練習後の爽快感は格別で、心身共

- ◆とき 下記の月曜日又は火曜日13時~15時
- ◆ところ 勤労会館(三宮)及び下記の場所
- ◆会費 年間 3000円 当日 500円

月・日	内容	講師	会場
4・16	ヨーガ	八木先生	しあわせの村保養センターひよどり
4・23	開講式、市役所見学		三井信託銀行
5・28	組み紐	小田先生	三井信託銀行
6・12	うたい	川端先生	鶴甲会館
6・26	うたい	川端先生	鶴甲会館
7・10	高齢者とビタミン	津野先生	勤労会館(三宮)304号
10・9	いも掘り		
10・29	組み紐	小田先生	三井信託銀行
11・12	お茶	吉井先生	兵庫銀行
11・26	お茶、折り紙	吉井先生	兵庫銀行
1・22	折り紙	吉井先生	兵庫銀行
2・7	一品持ち寄り		勤労会館(三宮)
2・26	閉講式		勤労会館(三宮)

に洗われる思いが致しました。

昼食後はグループに分かれ自由

行動。中でも水泳では、新聞やテ

レビで、「明石のハッスルおばあ

ちゃん」として紹介され、数々の

記録保持者でいらっしやる浅井英

子様がコーチをつとめて下さって

「上手に泳げた」「楽しかった」

と、皆様大喜びでした。広大な敷

地内には日本庭園もあり、まだ日

が浅い感はありませんが、落着い

た雰囲気を感じていました。

市役所は、市議、井上力様がご

案内をして下さいました。ロビー

では、ロダンの彫刻や絵画を鑑賞

し、設備の整った本会議場、図書

室等の見学も致しました。特に眺

望の素晴らしさが印象に残りまし

た。

組み紐、折り紙は前年度から続

けております。指先を動かす訓練

にもなりますし、お互いに教えあ

って親睦を深めています。

作品のネックレス。ブローチは

服にあわせてドレスアップを楽し

んでおります。

折り紙は、レパートリーも増え、

中でも八枚の色紙で折る箱は、色

の組み合わせによる変化も美しく

皆様に差し上げて喜ばれています。

うたい、は、鶴甲会館に於て、

川端先生が御手本をお示し下さり

乍らの御指導をうけ、幽玄の世界

へ導かれる思いを致しました。

津野先生からは、常に新しい学

説をお聞かせ頂いておりますが、

今回は「高齢者とビタミン」と題

して、ビタミンAを始め各種のビ

タミンが、如何に健康に深く関与

しているか、又その摂取の方法に

就いて、例をあげて詳しくご説明

下さいました。食生活に関する正

しい知識を身につけ、実行する事

によって健康はつくられると思わ

れます。

十月以降も、秋を楽しむいも掘

り、次いで、組み紐、お茶、……

と、学習して参ります。

今年、うたい、と、お茶、を

はじめて計画致しました。来年も

皆様方のご協力を得て、新しい

内容も取り入れ乍ら続けたいと思

います。佐保会員の方のみならず

浅井様を始め一般の方にもご参加

頂いております。一回だけのご参

加でも結構です。お気軽にお出か

け下さいませ。

婦人学級についての連絡先

小田清子

TEL 078-591-5468

井上たみ

TEL 078-811-4700

坪根ミキ

TEL 078-452-0550

睦会について

佐藤すなほ(昭19・家)

睦会とは、佐保会員で六十才を

越した方の年一度の集いです。

昭和五十年頃、有志の方々が集

まり、「長生きしたことを喜び、

昔話に花を咲かせましょう」と

翌五十一年に第一回が開かれ、大

正四年卒(三期生)から昭和十二

年卒までの文字通り女高師の草創

期からの二十九名が揃いました。

その後は毎年一期づつ新入会員を

迎えながら、皆様の楽しみの会に

定着しております。(当番は順送

り)

終戦前年に卒業の私にも先年ご

案内状が届き初出席。当然ながら

戦前に卒業の方々ばかり、奈良女

高師独特の凛とした中にあたたか

さと言えないようなおなつかしさ

を覚えました。皆様、幾十年の星

霜の社会と人生の体験を理知的に

語られ、他に例の少ない個性豊か

な中にいぶし銀の如き格調の同性

の集い!! 多くの良き先輩のお仲

間に入れた感銘を受けたものです。

さて、平成元年度睦会は十月二

十一日に三宮リクルートいすずビ

ルの「木曾路」で開催。秋晴れの

好日、早い方にはここにこと三十分

以上も前に来場、私共昭和十九年

卒の当番一同嬉しいやら大あわて

四十四名の元気なお顔が揃い開

会。先づ年間の物故者四名の方に

黙禱を捧げる。津野会長のご挨拶

について、米寿を越されても矍鑠

の箕浦様のご乾盃後、四つのテー

ブルで賑やかに会席料理を楽しむ

後輩の方もふえて、わが身といく

らも違わない方のお若さに元気を

出さねばと思う。つりこまれると

嬉しい。宴半ばより各自の近況報

告は人数が多くても皆様の緩急の

加減見事に、かいつまんだ自己史、

ポランティア、海外視察報告、闘

病体験、くらしの知恵、健康法、

更に公職や教職をお続けの方の社

会や学校の現況など興味深く、全

員の方にお伺いしたかった。

新入会の岡田様(昭24卒)が

「同期生を代表して出席しました。

大先輩のお元気に圧倒されました

と清々しい装いで爽やか……

会の半ばに校歌合唱、愛唱歌の

ご披露もあり、お互い再会を楽し

み乍ら散会してゆかれた。

当番一同多少の仕事を持つ身な

ので代りあい無事お役を果たす

を喜び合いました。

これからは次々お世話様になり

もより会のご報告

近藤房子(昭6・文)

伊丹地区(1・11・9) 9名

楽しい昼食後、例年のように柿

衛文庫、美術館、市立工業セン

ターへ別れて見学に、今後はもつ

と新顔や若い方々のご参加をのぞ

みたい。例会予定 十一月第三日

曜日

・尼崎地区(1・9・10) 10名

塚口駅前イカリビル愛蓮にて、

元気な顔ぶれで楽しく語り合った。

少し間はあいても続行の予定。

・西宮地区(2・3・11) 10名

三幸にて、家庭的なよい店。会

費四千円、地区委員の外毎度出席

五名。時々参加者八名。百十名全

員への案内は取りやめ、最初のア

ンケートの結果の約四十名中心に

電話案内と決め、次回よりは当番

も廻り持ちとする。有意義な時を

持ちよい集いなので多数の新しい

参加を希望する。

・東灘地区(1・11・26) 16名

阪急御影駅前 花水木にて

なごやかな食事後、幹事マラス姉

のギャラリィに移り、豊かな芸術

の香りの漂う中でより楽しい話の

一時を持った。毎年十月開催予定。

・北地区(1・12・3) 11名
 緑町自治会館にて、新しい二名の方のご参加を得てなごやかな集りとなった。

・同(2・9・2) 12名

西池さんのお宅にて、オードブルなど取りよせて、会費千五百円。もとの地区居住の中野さんも来られ、もともとこの「もより会」の先駆をしたのが我々だったので、今後止められぬなど、楽しい話し合いとなった。

・長田地区(2・7・28) 4名

働く婦人の家にて。参加者は少なかったが、若い方の出席が得られ幸だった。郷(ご)姉より会員の詳しい動静など伺い、その他孫の教育問題や悩み事など忌憚のない意見の交換がかない気楽な楽しい一時であった。理想的な「もより会」の在り方だったと思われる。

・姫路地区(2・5・26) 9名

レストランしらすぎにて。会費四千円。短大、高校の学会とかさなり出席者は少なかった。姫路市教育委員になられた川口志保子姉のお話もあり、なごやかな懇親会となった。地域広く、今後、継続には通信費の捻出に苦慮している。

以上、会催のお返事をいただきました。それぞれ有意義な会で今

後も益々発展がのぞめます。ただ、人員集め通信方法などむづかしい問題ですね。私共須磨地区は

日時 春休み中のウィークデー
 午後からお茶の会、御子様連れ

歓迎。ケーキ、果物等買集めお茶材料持参、会費五百円位。凡その連絡網にて次々電話で案内、今までは二十名近い出席者を得ています。ご参考になれば幸いです。この会は支部総会などと異なり、出来れば多数全体に案内状を出す様な面倒はさけ、近しい者たちの集まりから、押し抜けて行く様な気楽なやり方は出来ないものでしょうか。それではいけないでしょうか。どうかリーダーにのみご苦労や負担のかからぬ様、皆さんのお知恵やご協力をお願いしたいものです。

地区リーダー
 伊丹市 都築映子 塚口郁子
 宝塚市 中村俊子
 尼崎市 佐藤すなほ 中野久子
 真測瑠子 鈴木久子
 芦屋市 吉井豊子 久米寿子
 西宮市 正田純子 森岡泰江
 長岡加代

東灘区 柳瀬あや子 仲野裕美
 灘区 松浪美年子 寺尾喜美子
 中央区 横山しづ子
 兵庫区 上田ユクエ

北地区 小田清子
 長田区 郷美美枝
 須磨区 近藤房子 八木静子
 垂水区 曾谷愛子 竹田喜代子
 西区 平田美都
 明石市 津田ひさ子 丁子はつみ
 加古川市
 三木市 竹崎美佐保
 小野市
 三原郡 前川節子
 姫路市
 高砂市 溝川美枝子 山下 静香
 相生市
 赤穂市 土井千鶴子
 播磨郡
 神崎郡

事務局だより

◇行事(平成1・10(1)2・9)

・本部会報、支部だより第三号
 発送(平成1・11・27)

・新年会(支部だより編集反省会
 もかねて)(平成2・1・6)

・平成元年度佐保婦人学級閉講
 出席18名

・平成2年度佐保婦人学級閉講
 (平成2・2・27) 三宮勤労市民センターにて

・平成2年度佐保婦人学級閉講
 (平成2・4・23) 三井信託銀行にて

・支部総会・議事・記念品贈呈
 (平成2・6・3) 東急インにて
 新入会員2名、出席64名

支部総会報告

今年度の支部総会は六月三日に東急インで、六十四名が出席して開催された。

総会次第

- 一、開会のことは
- 二、支部長あいさつ
- 三、新入会員歓迎のことは
- 四、新入会員紹介とあいさつ
- 五、議事

・睦会(平成1・10・21) 木曾路にて出席者44名
 毎年本部会費納入者名簿一覽表をそえて、佐保会本部へ本部会費を納めています。御多忙の事と存じますが未納の方は会費お払込み下さいませようお願い致します。又住所、勤務先などの異動も至急お知らせ下さいませよう重ねてお願い申し上げます
 なお佐保会員の死去、或は災害に遭われたことなど御知りになりました時にも、事務局へなるべく早く御通知下さいませようお願いします。(内山美智子)

計報

新井露子様(大13・家)

平成1・11・7

宗 美子様(昭20・臨家)

平成1・1・16

横田すゑ様(昭2・文)

平成2・2・11

松山チヨ様(昭6・国漢)

平成2・3・18

四宮 瑛様(昭23・家)

平成2・4・18

深沢まさ様(昭4・臨国)

平成2・7・20

武 名穂様(大8・家)

平成2・10・8

編集後記

女性の社会進出がめざましい今日。社会に出て働きながら、家事、育児、学問研究等に励んでおられる方々にスポットをあてた支部だよりにしたと願って編集しました。御無理をお願いしました皆様、お忙しい中での御協力有難うございました。(近藤・八木・小山・柳田)